

都市地域デザイン学研究室 - 近況報告 - Urban and Regional Design Laboratory

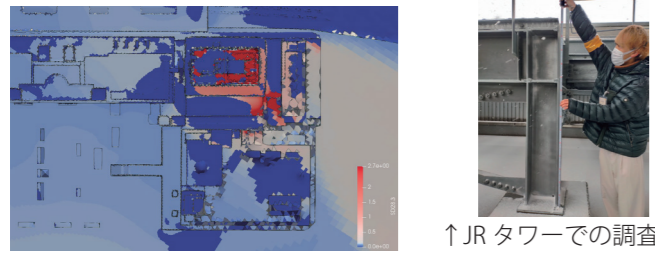
【2023 年度 Member】

教授：瀬戸口剛、准教授：小篠隆生、助教授：渡部典大 学術研究員：鈴木等 事務：門脇千恵
Dr：河村大助、細江まゆみ、Kan Qi、石黒卓、Krivorotko Margarita
M2：杉本匠 M1：川井智大、林拓実、道野貴光、渡邊亜揮
UG4：戒能陽香、松下鯉太郎、山田悠介、和田彩花

○2022 年度研究テーマ

札幌市内

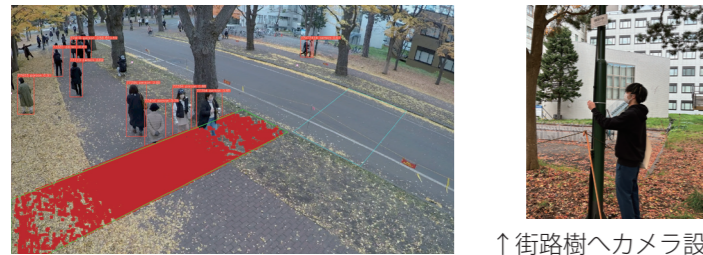
「積雪寒冷都市における雪 CFD を用いた
超高層ビルの風雪環境評価
- 積雪寒冷都市における都市デザイン その 26-」 道野貴光



↑ JR タワーでの調査

↑札幌駅 JR タワーの積雪状況を風雪シミュレーション
を用いて解析し、積雪寒冷都市の環境に適応した超高層
ビルの設計手法の構築を目指す。

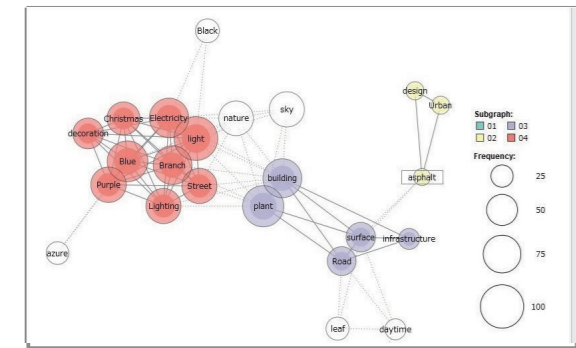
「街路空間における利用行動の実態調査と
AI 分析を融合した解析手法
- 積雪寒冷都市における都市デザイン その 27-」 林拓実



↑街路樹へカメラ設置

↑平常時及び北大金葉祭の北 13 条通りの動画を機械学
習によって分析した。パブリックスペースの行動調査の
自動化による都市デザイン手法の確立を目指す。

「Instagram 解析による人の感情を取り入れた都市空間評価
- ビッグデータを用いた空間計画手法 その 3-」 渡邊亜輝



←投稿データから抽出したテキストの共起関係をネットワーク的に視覚化する

↑投稿データから「特徴トリオ」「共起 label」「特徴画像」
を抽出し利用者の感情と都市空間要素の関係を評価し
た。SNS ビッグデータから人々が肯定的に感じる都市空間
を定量的に評価し、手法の確立を目指す。

札幌市外

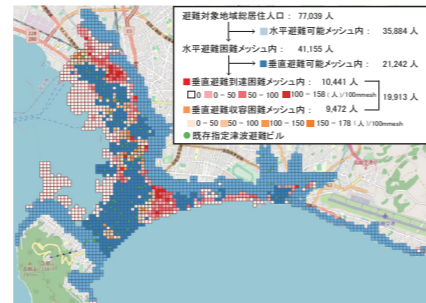
住民の QOL 向上のための公共施設複合地区の計画
- 北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究 -
大澤菜緒



←紅葉の名所 滝の上公園

↑北海道夕張市職員へのヒアリングにもとづく施設の
評価結果をもとに施設連携や再編の具体案を提案し、公共施設
複合地区の計画を行った。地区の集約を必要とする都市の
新たな公共施設再編手法の確立を目指す。

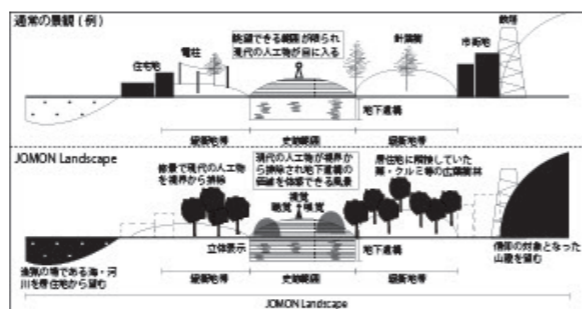
津波被害を低減するコンパクトシティの計画手法
- 防災ロバストコンパクトシティの構築 その 1 -
川井智大



←GIS ソフトを用いた津波
避難シミュレーションによる
避難可能状況の地域ごとの
分析

↑北海道函館市・釧路市における災害に強いコンパクト
シティの研究。人口集約と災害被害の低減を両立した計
画手法の確立を目指す。

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」都市に
おける広域景観計画の計画手法
高橋奈菜（修論）



←JOMON
LANDSCAPE
の定義

↑JOMON LANDSCAPE を該当自治体がどのように実現してい
たかを分析することで、コントロールすべき項目・範囲と共
通の価値観を得るための広域景観の計画手法を明らかにする。

○プロジェクト

・北海道下川町での空き家調査

下川町の空き家の件数、位置、状態等を戸別に
把握する現地調査を行った。空き家マップを
作成し、対策の計画論の提案にもつなげていく。
いくつかの空き家は 360 度カメラで撮影を行い、
疑似的な内覧を可能にして移住を促進している。



↑現地調査の様子

↑下川町の地中熱
利用施設の見学

・道の駅ニセコビュープラザ再整備

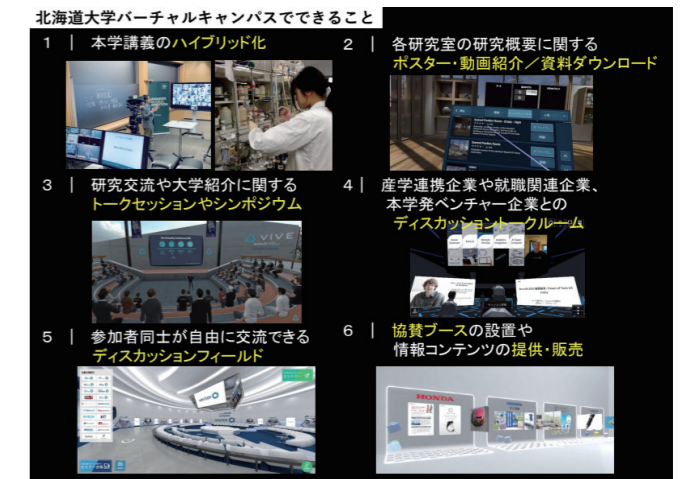
道の駅の建て替えに伴う基本設計を行っている
学生は模型製作で参加



↑既存ニセコ道の駅

・キャンパスバーチャル化事業 (北大工学部、北大博物館)

各施設をモデリングすることでバーチャル化し、
VR を用いた利用を検討している



○イベント



↑2022 年度集合写真

↑2022 年度卒業式・修了式後の謝恩会にて